※令和４年度以降入学生用

学校番号	3028

令和５年度　教育文理科

教科	教育文理	科目	教育探究Ⅰ	単位数	１単位	年次	１年次
使用教科書	自主教材						
副教材等	一生使える探究のコツ　入門編（トモノカイ）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「よりよい学校、よりよい大阪をめざして、あなたは何ができるか」という問いを探究することがこの授業の大きな目標です。具体的には、実社会や実生活における課題を解決する活動を通して、次のようなことができることをめざします。
・「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点で、身の回りの出来事に対する興味を深め、より深い知識や概念を学び、情報を分析して発表できるようになる。
・対話を通して深く考える態度、協働的な場を作ることに対する積極性を身につける。
・未知の物事への寛容性や異なる価値観を尊重する態度を身につける。

２　学習の到達目標

教育に携わるための探究の見方・考え方を働かせ、実社会や実生活における課題を解決する活動を通して、よりよく課題を発見し、解決していくための資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
（１）「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点で行う探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能の基礎を身に付け、探究の意義や価値の基本的な概念をおおむね理解している。
（２）実社会や実生活について、「学び、（他者に）教え、（学び教えることを通じて）自ら育つ」という視点から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。
（３）対話を通して主体的・協働的な探究の場を作ることに対して積極的になろうと努力することができる。また未知の物事に対応する力、異なる価値観を尊重し、よりよい社会を実現しようと努力することができる。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・与えられた手法を用いて事実的知識を獲得しようと努力することができる。 ・収集した知識を「教育」という視点から、より深い知として統合する場面が頻繁に見られる。 ・「教育」という視点から調査した結果や考察を発表する手法をおおむね理解することができる。	・調査結果や考察を発表する手法を適切に選択する場面が頻繁に見られる。 ・情報を分析し、より深い問いを立てる場面が頻繁に見られる。 ・客観的な根拠を用いて説明し、論理的な説明を行う場面が頻繁に見られる。	・自分と違う意見を尊重する態度を示す場面が時折見られる。 ・自己を客観的に見つめ、身の回りの出来事と自己を関連付ける場面が頻繁に見られる。 ・目標に向かって自律的に行動し、他者と協働的な作業を行う場面が頻繁に見られる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	人を知り、本を知る	・ビブリオバトルを通して、自分の経験をもとに「教育」に関わる事柄について、様々な視点から考察する。	a:「教育」という視点から調査した結果や考察を発表する手法を理解している。 b:情報を分析し、問いを立てることができる。 c:他者の意見や異なる価値観を尊重することができる。	発表 レポート	発表 レポート	ポートフォリオ 観察
	地域探究	・大阪の魅力を中学生に伝えるため、学校周辺を紹介するパンフレットを作成する活動を通して、探究の手法を学ぶ。	a:複数の分野の知識を統合し、より深い知識や概念を得ることができる。 b:調査結果や考察を発表する手法を適切に選択できる。 c:目標に向けて自律的に行動し、他者と協働することができる。	課題制作 発表 レポート	課題制作 発表 レポート	ポートフォリオ 観察
2	学び」について考える	・自分の得意なことを１５分間で人に伝えるミニレッスンの計画を立て、実行する。	a:与えられた手法を用いて事実的知識を獲得しようと努力することができる。 b:調査結果や考察を発表する手法を適切に選択できる。 c:目標に向けて自律的に行動し、他者と協働することができる。	発表 課題制作 レポート	発表 課題制作 レポート	ポートフォリオ 観察
	問いを立てる	・個人で探究の問いを設定する。 ・問いに対する調査を行い、仮説を立てる。	a:「教育」という視点から調査した結果や考察を発表する手法を理解することができる。 b:情報を分析し、問いを立てることができる。 c:身の回りの出来事と自己を関連付けることができる。	発表 レポート	発表 レポート	ポートフォリオ 観察
3	問いを共有する	・発表で問いと仮説を発表する。 ・発表の振り返りをもとに問いを再構築する。	a:収集した知識を「教育」という視点から、より深い知として統合することができる。 b:客観的な根拠を用いて理論的に説明することができる。 c:他者の意見や異なる価値観を尊重することができる。	ポスター 発表 レポート	ポスター 発表 レポート	ポートフォリオ 観察

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度